

平成21年3月期
第2四半期決算説明資料

平成20年11月12日

 川重冷熱工業株式会社

平成21年3月期第2四半期決算概要

当中間期の当社の受注高は、ボイラ事業は増加したものの空調事業で機器本体、改修改工事・メンテナンス共に減少したことにより、前年同期比18百万円減の109億68百万円、売上高は、受注高減少等の影響により、前年同期比1億95百万円増の82億17百万円となりました。

利益面では、資材費高騰分の価格転嫁が図れなかったことと空調事業の売上高減少等の影響により、営業利益は、前年同期比57百万円減の19百万円、経常利益は、前年同期比36百万円減の35百万円、中間純利益は、前年同期比16百万円減の5百万円となりました。

平成21年3月期第2四半期損益計算書 川重冷熱

金額単位：百万円（百万円未満切捨て）

	前中間期	当中間期	前年同期比	備 考
売上高	8,021	8,217	102.4%	中間決算の総括に記載の通り。
売上総利益	2,099	2,051	97.7%	
販売費及び一般管理費	2,022	2,032	100.5%	
営業利益	76	19	25.0%	中間決算の総括に記載の通り。
営業外収益	8	24	300.0%	貸倒引当金の戻入益、為替差益の増等による
営業外費用	13	9	69.2%	
経常利益	71	35	49.3%	中間決算の総括に記載の通り。
特別利益	-	13	-	
特別損失	-	-	-	
税引前中間純利益	71	48	67.6%	
法人税等調整額	50	43	86.0%	
中間純利益	21	5	23.8%	中間決算の総括に記載の通り。

平成21年3月期第2四半期貸借対照表 川重冷熱

資産の部

金額単位：百万円(未満切捨て)

	前中間期末	当中間期末	前年同期比	備 考
流動資産	8,932	8,628	96.6%	
現金及び預金	13	6	46.8%	
受取手形・売掛金	6,477	6,170	95.3%	前中間期末日は銀行休業日のため
棚卸資産	2,029	1,924	94.8%	
繰延税金資産	310	209	67.5%	
その他の流動資産	100	318	315.6%	親会社預け金の増加による
固定資産	4,272	4,101	96.0%	
有形固定資産	1,903	1,772	93.1%	
無形固定資産	204	182	88.9%	
投資その他の資産	2,163	2,146	99.2%	
資産合計	13,205	12,729	96.4%	

平成21年3月期第2四半期貸借対照表 川重冷熱

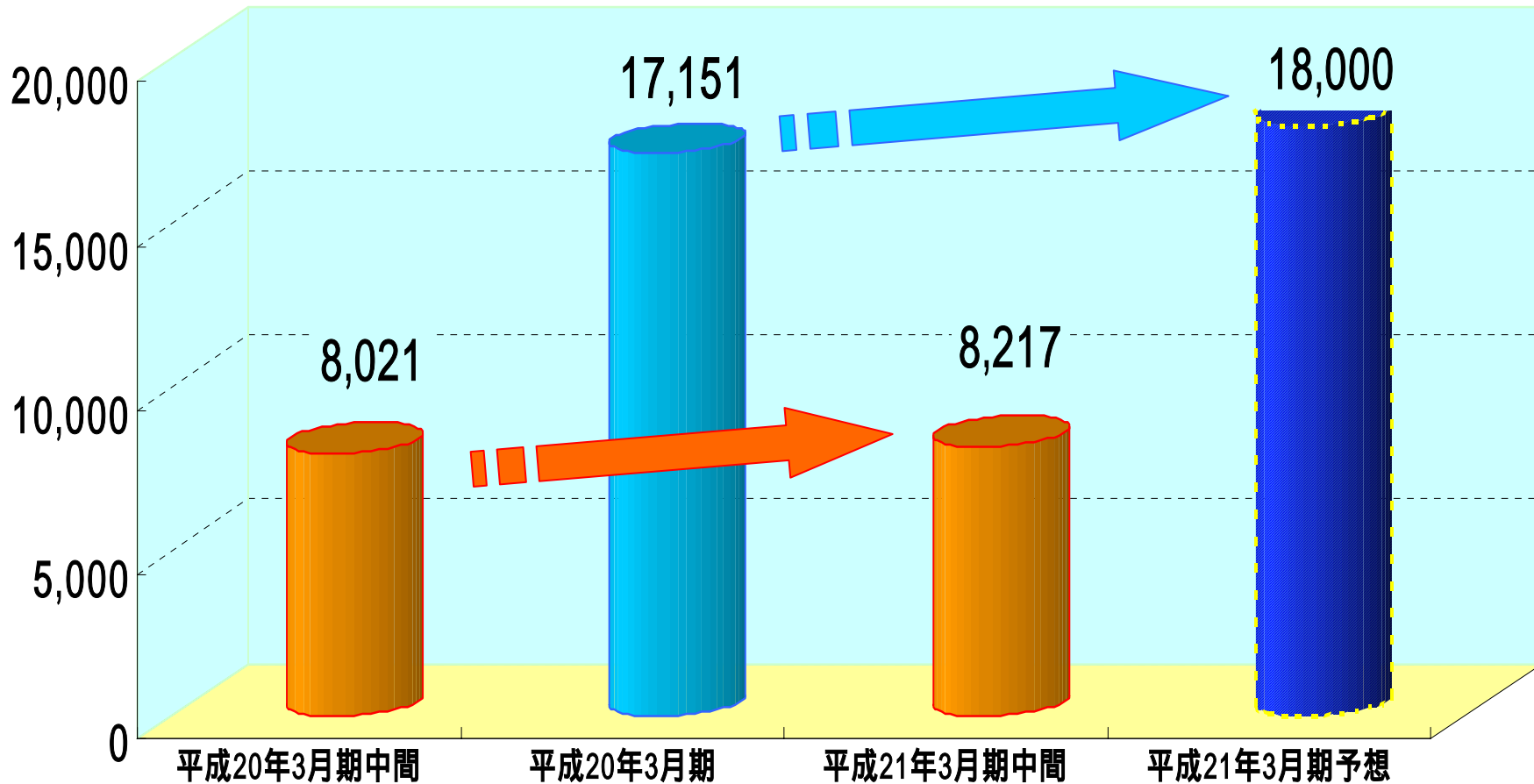
負債・純資産の部

金額単位：百万円(未満切捨て)

	前中間期末	当中間期末	前年同期比	備 考
流動負債	5,886	5,457	92.7%	
支払手形・買掛金	4,181	3,712	88.8%	前中間期末日は銀行休業日のため
短期借入金	550	700	127.3%	
前受金	107	130	121.1%	
未払法人税・未払費用等	432	350	81.0%	中間純利益の減少による
その他の流動負債	614	563	91.8%	
固定負債	3,151	3,056	97.0%	
退職給付引当金	3,000	2,903	96.8%	
その他の固定負債	151	153	101.2%	
負債合計	9,037	8,514	94.2%	
資本金	1,460	1,460	100.0%	
資本剰余金	1,228	1,228	100.0%	
利益剰余金	1,466	1,519	103.6%	
(内 中間純利益)	21	5	23.8%	
評価換算差額等 その他有価証券評価差額金	24	20	83.6%	
自己株式	12	13	110.3%	
純資産合計	4,167	4,215	101.2%	
負債・純資産合計	13,205	12,729	96.4%	

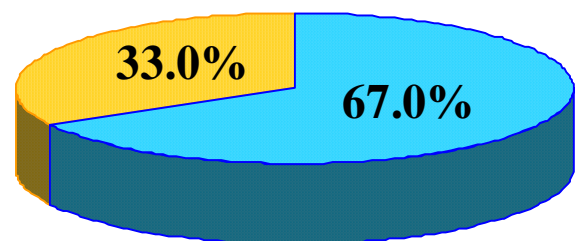
売上高の推移

(単位:百万円)



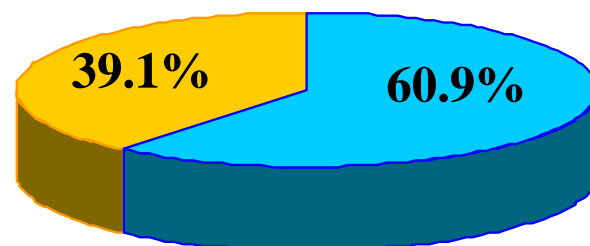
売上高構成比の比較

ボイラ事業



空調事業

ボイラ事業



空調事業

平成20年3月期
中間決算

平成21年3月期
中間決算

変化要因

空調事業における機器販売ならびに改修改造工事・メンテナンスでの減少が大きかった影響により、構成比が変化しました。

空調事業

機器本体の売上高は、大規模商業施設等で使用される大型吸収冷温水機とコージェネレーションシステム等に使用されるジェネリンクタイプの吸収冷温水機等が減少したため、前年同期を下回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、オーバーホール等の大口工事が、減少したことが影響し、前年同期を下回りました。

ボイラ事業

機器本体の売上高は、大型の水管ボイラならびにコージェネレーションシステム等に使用される排熱ボイラ等が増加したことにより前年同期を上回りました。

改修改造工事・メンテナンスの売上高は、ガス化転換工事等が増加したため、前年同期を上回りました。

平成21年3月期 業績予想

平成21年3月期の業績予想



金額単位：百万円(未満切捨て)

	前 期	今期予想	前 期 比	備 考
売 上 高	17,151	18,000	105.0%	
空調事業	11,534	11,700	101.4%	
ボイラ事業	5,616	6,300	112.2%	
営業利益	409	435	106.4%	
経常利益	377	400	106.1%	
当期純利益	170	180	105.9%	

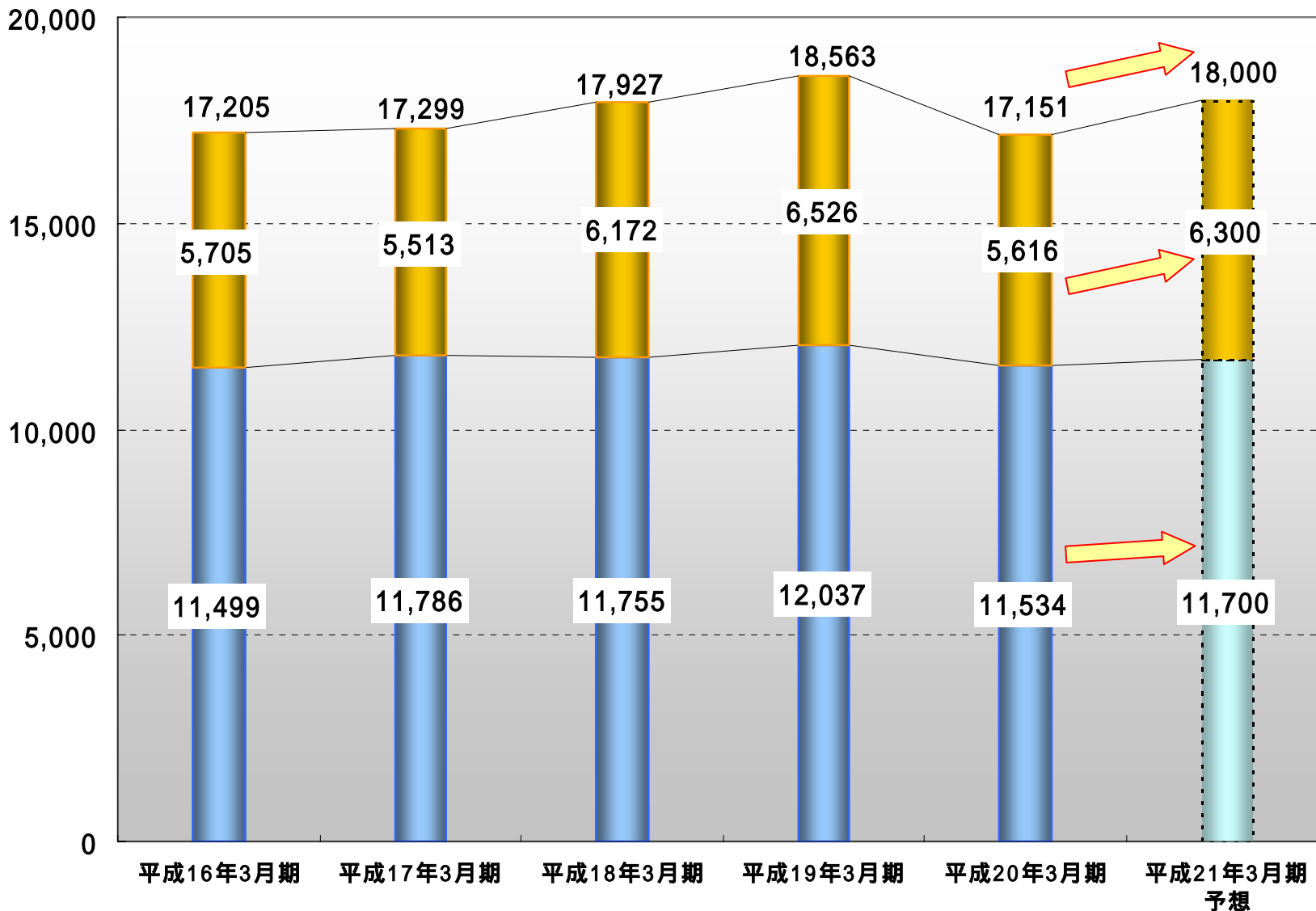
売上の推移(予想)



(単位:百万円)

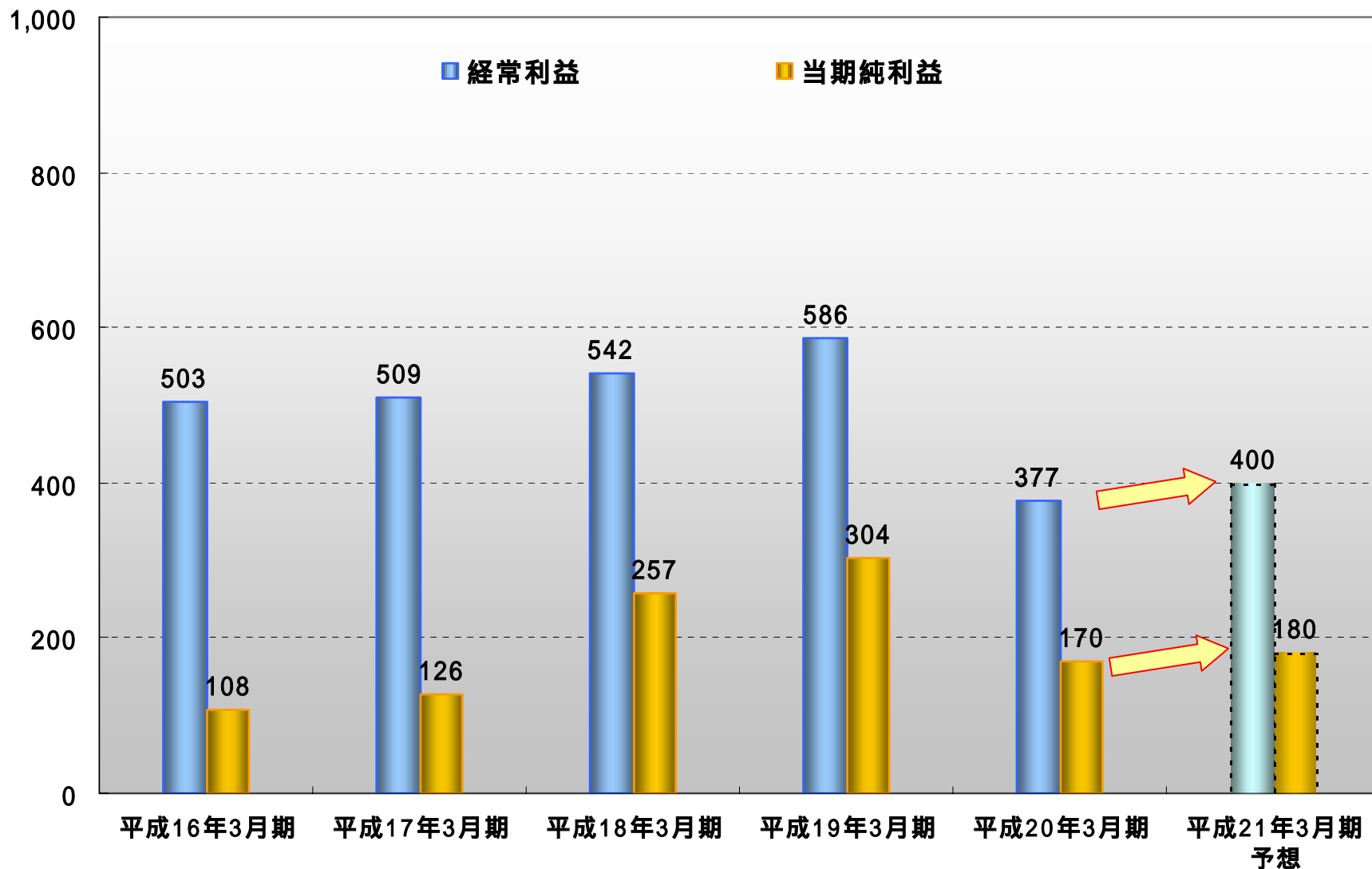
■ 空調事業

■ ボイラ事業



利益の推移(予想)

(単位:百万円)



空調事業

機器本体は、高まる省エネニーズに対して、三重効用吸収冷温水機ならびに、排ガス、排温水が活用できるジェネリンクタイプの吸収冷温水機の提案により省エネ性を訴求し、拡販に努めます。

24時間遠隔監視のメンテナンスシステム「テレメンテ」の活用および当社独自で開発した省エネ設備「イーコップセイバー」により積極的に省エネ提案を行い、引き続き改修改造工事・メンテナンスの拡大に努めます。

ボイラ事業

大型貫流ボイラ「イフリート」の制御性の特長、省エネ性に加え、低Noxシリーズにより環境性の面からもPRを行い、拡販に努めます。

改修改造工事・メンテナンスは、引き続き、既設機器の省エネ改造を中心とした工事増ならびに年間保守契約の獲得向上を目指してまいります。

参 考

当社は、「エクセレントカンパニーの構築」を目指し、顧客ニーズにあった商品を業界一級の技術で提供することにより適正利益を確保し、株主には適正な配当を行うとともに従業員および全事業従事者のために人間性豊かでゆとりのある業務遂行と暮らしを創造し続けながら、社会に貢献することを経営の基本方針としております。

当社の関連する空調業界では、環境性を考えて今後も高効率機および余剰エネルギーを有効利用する機器が主流になると考えられます。

ボイラ業界では、貫流ボイラを中心とした市場構造には変化がなく、大型ボイラから貫流ボイラへの置換えが伸展していくものと予想されます。

空調・ボイラ業界共に総需要は、景気に左右される傾向があり、新規需要に代わり、リプレース需要が増加してくると予想されます。

また、銅管、鋼材をはじめとする資材費の高騰により利益が圧迫され、利益確保の厳しい状況が続くと思われれます。

本資料に関する問合せ



川重冷熱工業株式会社

企画室 経営管理部

TEL 077-563-1111

ご注意

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願いいたします。